

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第33回

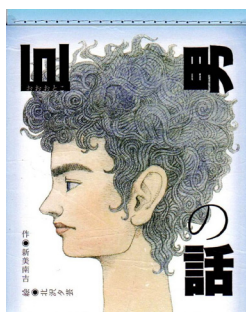
金星になった巨男^{おおおとこ}

今、新美南吉記念館では、東京の「ギャラリーまある」が企画した10冊の新美南吉オリジナル絵本の原画100点を展示する「新美南吉 10冊の絵本展」を開催しています（7月1日まで）。今回は、10冊の中に選ばれている童話「巨男の話」についてご紹介しましょう。

「巨男の話」は、南吉が中学4年生、15歳の時に書いた習作で、これまであまり知られてきませんでした。しかし、日記を見ると、創作仲間や同窓会の観客を相手に朗読したり、岩滑小学校での代用教員時代に子どもたちに語って聞かせたりしていて、自信作だったようです。

にしても白鳥は涙を流しません。白鳥を連れて旅に出た巨男は、都にやって来ます。都の人々は巨男を怖がりしました。王は彼を鎖に繋ぎ、宮殿の中に塔を作る仕事をさせます。痩せ細りながらも、ひとり塔を作り続ける巨男。ある夜、自分が死んだら白鳥は涙を流すかもしれないと思いつき、塔から身を投げて死んでしまいます。白鳥は涙を流して元の王女に戻り、王は大人しい巨男にひどいことをしたと謝りました。空が曇って金星がたった一つあるんで見えるような夜、人々は巨男が塔の上で灯していたカンテラに例えて、「あれは、巨男の灯だ」と言うようになりました。

「巨男の話」は、さびしい者同士の愛とすれ違いの悲劇という点で、2年後の「ごん狐」に発展していく大切な作品です。南吉は、「ごん狐」を村のお爺さんから聞いた話という設定にしました。ごんを村で代々語り継がれる伝説



『巨男の話』
絵・北沢有芸 装丁・後藤祥子



の狐にすることで、ごんに永遠の命を与えたのです。同じように孤独だった巨男は死んで金星になることで、都の人々にいつまでも語り継がれるようになりました。

夜空に明るく輝く金星は、古来、ギリシャではアフロデイト、ローマではヴィーナス、密教では虚空蔵菩薩と神格化されてきました。人々からいわれなく恐れられ、虐げられ、それでも美しい心を持ち続けて死んだ巨男を、南吉は神の仲間に入れたのです。

アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだきっかけに行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666
東洋町2-1 企画課
Eメール
kouhou@city.handa.lg.jp



表紙は、半田市の市民活動の写真です。半田市のNPO法人の認定数が県内トップクラスで、市民活動がとても活発なまちです。この活動を応援しているのが、「はんだまちづくりひろば」です。P2から掲載していますのでぜひご覧ください。

さて、6月18日は父の日です。僕の父は甘いものが好きなので、チョコケーキでもあげようと思います。みなさんは、日頃の感謝に何をプレゼントしますか？（浅野）

編集後記